

レジメン名

VRD lite

出典 Br J Haematol. 2018 Jul;182(2):222-230. doi: 10.1111/bjh.15261. Epub 2018 May 8

実施部署区分

入院
 外来
 処置

対象疾患

多発性骨髄腫

進行・再発
補助療法(術前・術後)
初発

投与減量の基準

ANC	1000/mm ³ 未満	PLT	5万/mm ³ 未満
ボルテゾミブ	上記または、Grade3以上の非血液毒性が発現した場合には、Grade2に回復するまで休業(末梢神経障害以外)。その後、減量して再開。減量の目安は以下の通り。 1.3mg/m ² →1.0mg/m ² →0.7mg/m ²		
レブラミド	上記または、Grade3以上の非血液毒性が発現時、Grade2に回復するまで休業(末梢神経障害以外)。回復後10mg/日で再開。その後の減量は以下に従う。 CLorが80mL/min未満の時、10mg/日 CLorが30mL/min未満の時、15mg/日 隔日投与 透析患者では、5mg/日 連日投与		

投与中止の基準

ANC	1000/mm ³ 未満	PLT	5万/mm ³ 未満
Hb	8.0g/dL未満	AST/ALT	80IU/L以上
T-bil	1.8mg/dL以上	CR	2.5mg/dL超える
その他	Grade2以上の末梢神経障害		

 1クール期間
 (次のクールまでの標準期間)

 総クール数
 導入療法:1~9サイクル
 地固め療法:10~15サイクル

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1, d8等)
導入:1~9サイクル				
ボルテゾミブ	1.3mg/m ²	NS適量	皮下注射	d1, 8, 15, 22
レナリドミド(レブラミド)	15mg/body	経口		day1-21
デキサメタゾン(レナデックス)	75歳以下 40mg/body ^{※2} 76歳以上 20mg/body	経口		d1, 8, 15, 22 ^{※2}
※2 出典では75歳以下は、d1, 2, 8, 9, 15, 16, 22, 23にDEX 20mg投与だが、アドヒアランスを考慮してd1, 8, 15, 22に40mg/bodyへ変更した。				
地固め:10~15サイクル				
ボルテゾミブ	1.3mg/m ²	NS適量	皮下注射	d1, 15
レナリドミド(レブラミド)	15mg/body	経口		day1-21
<出典より副作用予防薬について>アスピリン(81mgまたは325mg)または低分子量ヘパリンによる血栓予防、帯状疱疹に対する抗ウイルス薬を必要とした。導入療法では、ビスホスホネート療法を必要とした。				

1日投与順 (経時的にプレ Medikation・ポスト Medikation、溶解液まで含む)
<導入:1~9サイクル> day1-21 ①レブラミド15mg 分1 空腹時
d1, 8, 15, 22 ①ボルテゾミブ1.3mg/m ² +生食適量(皮下注射)
d1, 8, 15, 22 レナデックス20mg or 40mg ^{※2} 分1-2で昼までに内服
<地固め:10~15サイクル> day1-21 ①レブラミド15mg 分1 空腹時
d1, 15 ①ボルテゾミブ1.3mg/m ² +生食適量(皮下注射)